なかったつらい状況を表し、肩にとまった鳥は平和・自由の象徴です。少女の隣には空っぽの椅子があります。座って共感してもらうこと、未来の世代に対して問題を解決しなければとの私たちの宿題を空席で表してもいます。

みなさんの行動に感動

ドゥヒさんが市民のみなさんのスタンディングの写真などをメールでおくってくれて感動をうけました。

10/13市民のみなさんとスタンディングするソギョンさん

中止は作家本人たちや不自由展実行委員会に何の説明も連絡もありませんでした。私たちは声明文を出し、津田芸術監督と大村会長に面談を求め懇談しましたが、「職員たちの不安をかかえて」の繰り返しでした。その後、検証委員会が立ち上がったのですが、調査に長い時間かけ、不自由展の実行委員会と作家の私たちはそれに対して何もすることができなく、見守るしかできませんでした。不自由展実行委員会は、２０１５年展示の対応・対策マニュアルを実行委員会に要求してきましたがその対策すら取られませんでした。再開を求めて仮処分を申し立て再開で和解しましたが、テロの脅迫とともに出展16の作家のなかにもいろんな意見の人もいて本当に残念です。

でも、私たちのためにボイコットされていた作家さんたちの作品を再開によって観ることになったことはよかったと思います。不自由展・その後は入場制限、抽選になって応すべきだったと思います。私自身は納得がいかず、ボイコットすべきでは

限定再開に納得いかず

海外作家のボイコット、再開求める声明文や日本の市民のみなさんの活動でひとつの希望が見えてきたと思いましたが10月８日の再開に当たっては入場制限、抽選になって本当に残念です。

でも、私たちのためにボイコットされていた作家さんたちの作品を再開によって観ることになったことはよかったと思います。不自由展・その後に出展16の作家のなかにもいろんな意見の人もいて、こういう結果になったのだと思います。作家の間でも力をあわせて対応すべきだったと思います。私自身は納得がいかず、ボイコットすべきではなかったかという思いもいまだにあります。

残された２日間何の制限もなく展示を！愛知県は謝罪を！

大村知事に10月13日に「限定再開」への抗議を出しました。翌日は台風で扉を閉め「表現の不自由展・その後」を観た観客は４日間で６９０人しかなりませんでした。

残された２日間は、検閲なしで全面再開をしてほしい。二つは、トリエンナーレ実行委員会は作家のみなさんと不自由展実行委員会、市民のみなさんに本当の謝罪をしてほしい。

独裁時代、覚悟を

韓国では表現の自由、言論の自由が侵害された時、声をあげますが、日本ではあまり声を出さないように感じました。

私たちは、独裁時代でも声をあげていましたし、刑務所にも入る覚悟をもってたたかったのですが、日本社会では行動や自覚が恐怖に負けているように感じました。

私たちは芸術大学で学び、この時代に私たちのもっている芸術という手段で世の中を変えていくべきだと思っています。芸術家たちは常に民衆から離れないようデモや集会の先頭にたっています。

〈平和の少女像〉とハルモニ

１９９１年に自ら元慰安婦として名乗り出た金学順（キム・ハクスン）さんが先駆者ですが、水曜集会（日本軍「慰安婦」問題解決全国行動＝第二次世界大戦時での旧日本軍の元慰安婦とその支援者たちが、日本政府からの公式謝罪および法的補償を要求するために開催している集会）が正しい歴史をつくる、日本の謝罪を求める場でもあります。多くの人たちが女性の人権をアピールする場にもなっています。

水曜集会で活動しているハルモニが「蝶々基金」ナビ（蝶）基金をつくって今でも世界の各国でおきている戦争の被害者の支援をしていますし、日本に謝罪を求めるだけではなく、東日本大震災が起きたときに日本を助ける支援活動もしていて、ハルモニたちの魂のある場所、平和を学ぶ場になっていると思います。

〈平和の少女像〉はハルモニたちのたたかいの歴史としてはじまったのですが、この大きな平和への流れに私たちは少しでも役にたてばと思っています。〈平和の少女像〉を通して人権を語り、平和のメッセージを伝えていきたいと思います。

ベトナムのピエタ像や韓国で米軍の戦車に轢かれ犠牲になった女子中学生の像の作品もつくりました。沖縄、済州島の問題とも連帯、憲法九条の問題も私たちは連帯をしていかないといけないと思います。

職場交流会
ＯＢと現役労働者がつながり、双方向の運動をすすめたい

名古屋市職労前委員長　蛯原京子

10月20日（日）革新懇全国交流会ｉｎ兵庫の二日目「職場交流会」分科会に参加しました。『安心して働ける職場と社会を―「働き方改革」と革新懇運動―』をテーマに、全国各地から90人をこえる参加者でいっぱいの会場で、各地の取り組みや課題を交流。牧野富夫全国革新懇代表世話人のご挨拶に始まり、生熊茂実ＪＭＩＴＵ顧問が問題提起。福保労からの参加者による保育労働者が置かれている現状の報告など、４団体からの報告の後、参加者から各団体や労働組合での活動を交流。

参加者のみなさんの報告や発言に共通していたのは、職場での「働かされ方」が厳しい中、ＯＢ中心の革新懇運動を現役労働者とともに職場でどう進めていくのかが課題になっている事でした。

職場の労働組合自体が、役割を果たせなくなっている中で、革新懇運動に挑戦したいとの自治体労働者の発言もありました。

牧野代表世話人は、職場の実態や労働者が置かれている状況をつかむことが重要とまとめられました。

相当な努力と工夫が要りますが、革新懇運動を中心的に担っているＯＢが、現役労働者とつながり職場実態や課題を共有することと、現役労働者が職場での労働組合活動を、仲間を増やしながら少しずつでも元気にしていくことの双方向で運動を進めることが、重要であることを再認識した職場交流会でした。

野党連合政権へ、いま出番！
「市民と野党の共闘」分科会

交流会２日目に行われた「市民と野党の共闘」特別分科会の様子を報告します。

日本共産党**穀田恵二**国対委員長は、「『市民と野党の共闘』はこの４年間で大きく変化した。２０１５年の国民連合政権構想の提案は、唐突と受け止められたが、今、政権問題が現実の課題になった」と強調されました。高知県知事選挙は県内の全野党が推して共産党の松本けんじ氏を擁立という市民と野党の共闘の新しいかたちが発展していることを紹介。次の総選挙に向けて、政権合意、政策合意、選挙協力を作り上げなければならない、革新懇の大きな役割が強調されました。

関西学院大学教授の**冨田宏治**さんは、政治を腐らせているアベはもはやエイリアン、格差貧困が拡がっている。低投票率が問題になっているが、山形では投票率が60％を超えて野党共闘が勝利した。

明日のご飯も食べられない若い世代、貯蓄ゼロこういう人たちにとっては選挙よりも目の前の自分の生活で精一杯。この人たちに「政治に関心をもて」といってもそう簡単に持てるものではない。この人たちの生きづらさに共感し、どこまでも寄り添ってサポートしながら政治を語る、そういう取り組みが大事と語られました。

全労連議長の**小田川義和**さんは総がかり行動のこの間果たしてきた役割を語られ担い手をどうつくるのかを問いかけました。

法政大学名誉教授の**五十嵐仁**さんは市民と野党の共闘の光景は自然と作られたのでない。変えてきたのは私たちであり、みなさんだ。過去を問わない「好きだ。キライだ」ではなく、病んでいるこの国を変えていくために、あらたな政権交代に向けて開拓者として奮闘しようと述べられました。

10／20「市民と野党の共闘」分科会で討論